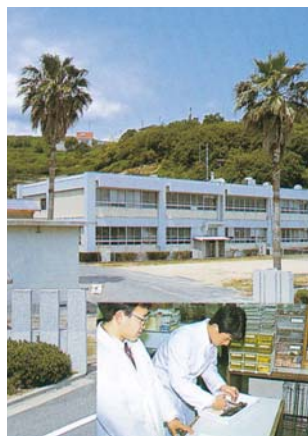


## 4 これからの漁業

最近、瀬戸内海では、魚が少なくなってきました。そこで、魚が住みつきやすくするためにコンクリートブロックや石を海にしずめたり、海草を育てたりしています。また、魚やえび、かにの卵を人の手でかえし、稚魚を海や川に放流し、自然の中で大きくしてからとる栽培漁業も進んできています。今までのとるだけの漁業から、水産資源をふやしながるとる「つくり育てる漁業」への努力もおこなわれているのです。

### 魚やえび・かにの栽培

これからの漁業のことを調べるために、わたしは瀬戸内市牛窓町にある岡山県水産試験場と栽培漁業センターを見学しました。



魚の研究をしている岡山県水産試験場 岡山県栽培漁業センター(瀬戸内市)

### 水産試験場のおじさんの話



ここでは、今、かきとあまごのバイオテクノロジーを使った試験をしています。かきは産卵後に死ぬことが多かったので、卵をもたないかきをつくる研究をしているんだよ。また、あまごは、めすの方がおすにくらべて産卵期に色がわりしないため高く売れるので、めすだけつくる研究もしています。

魚やえび・かにをふやすための研究をしたり、海に放した魚の動きの調査をしたりしています。ここで開発した技術を漁業者のみなさんに役立ててもらっています。

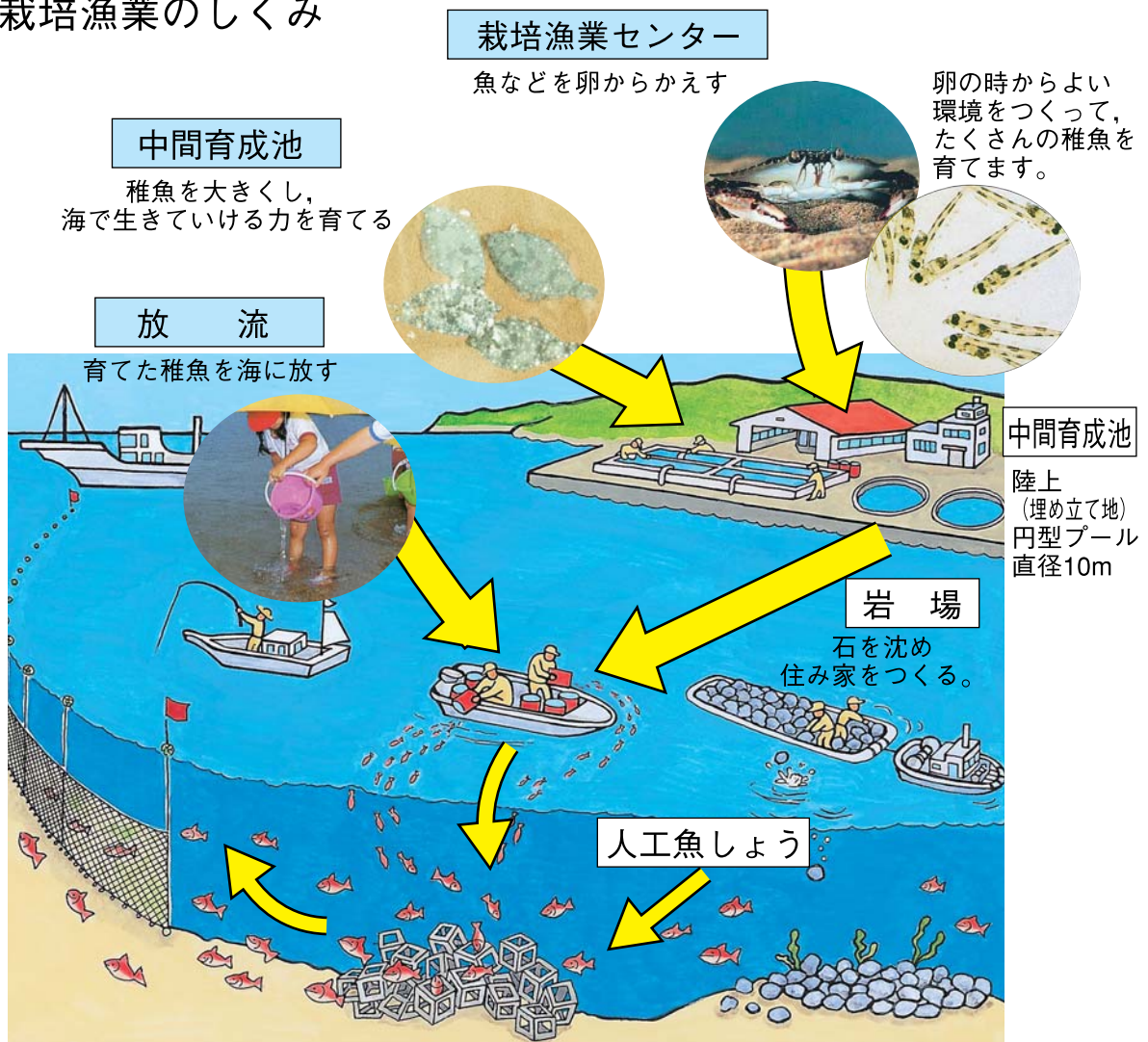
## 栽培漁業センターのおじさんの話



水そうの中をよく見てごらん。小さな魚が泳いでいるでしょう。卵の時からよい環境をつくって、たくさんの稚魚を育てているのです。

えびやかには、短い期間で大きくなるので、栽培するのに都合がよいのです。また、ひらめやかれいは、おいしくて人気があることから栽培漁業に適しています。海へ放したえびやひらめが、たくさんとれた話を聞くと、とてもはげみになります。

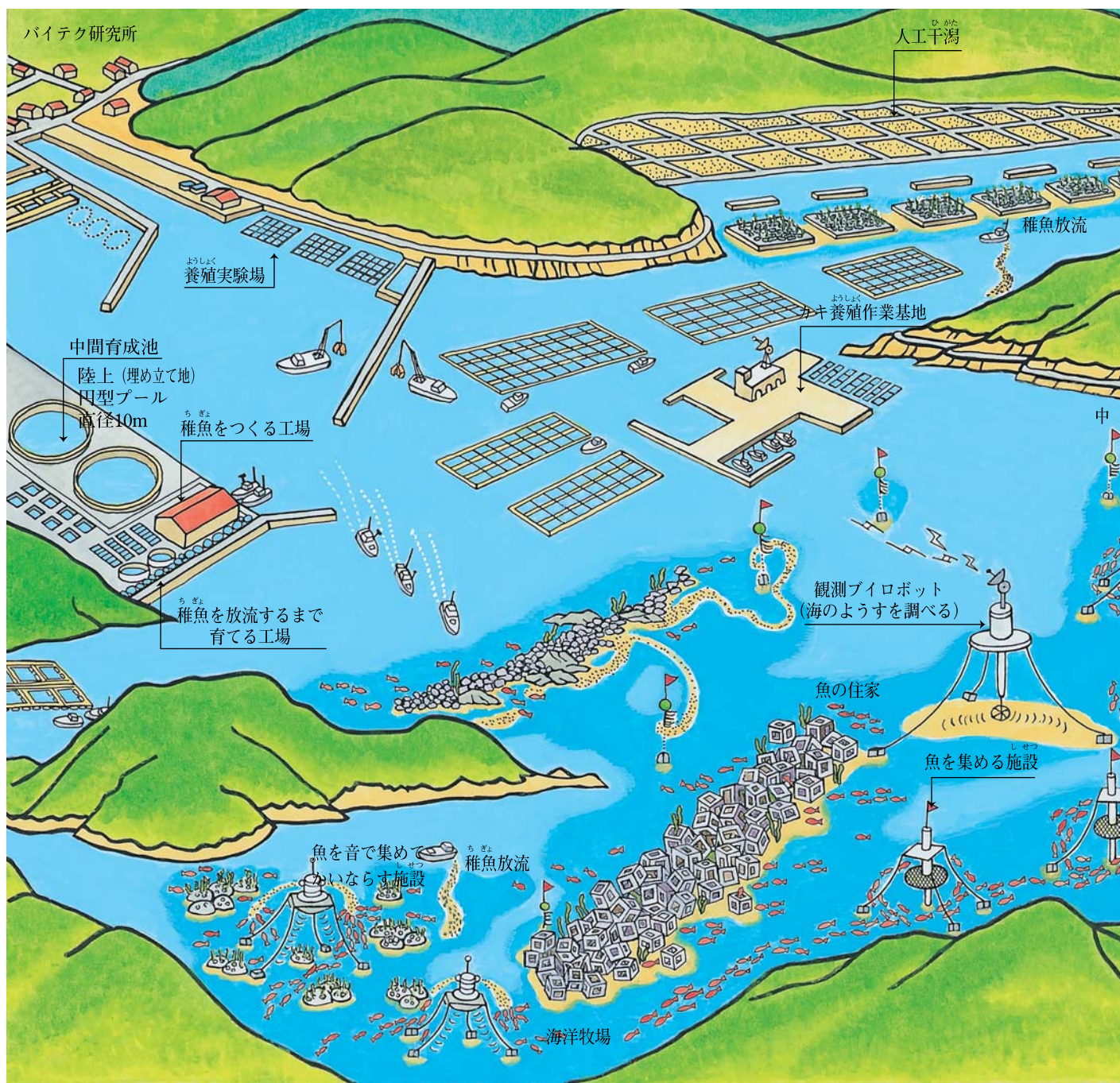
## 栽培漁業のしくみ



栽培漁業のしくみ



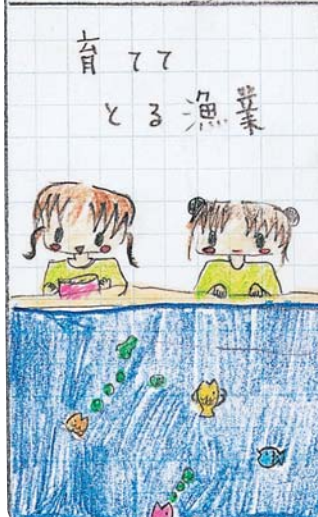
## これからの計画

岡山県では、元気でじょうぶな稚魚ちぎよの大量放流や、音とえさで魚を集めて飼か慣ならす技術を使って、海洋牧場づくりなどをすすめています。さらに、藻場もばづくりや稚魚ちぎよを保護する施設ほごの設置しせつをおこない、小さな魚はとらないようにするなど、育てる漁業を発展させていきます。



これらのことをすすめることで、漁業がさかんになり、私たちも新鮮しんせんでおいしい魚がもっとたくさん食べられるようになるでしょう。

### ひろこさんのノート

 <p>岡山の海</p>	<p>浅くてプランクトンなどの魚のえさが多く、もがたたくさんある所も広いので魚が住みやすく卵を生むのにもよい。</p>
 <p>とる漁業</p>	<p>小型底引きあみや小型定置あみ、流しあみなどを利用して漁師さんは魚をとっている。</p>
 <p>育てる漁業</p>	<p>のりやかきなどを種つけて、育てたり、卵をかえし稚魚を放流して大きくしたりして、魚などをたくさん取る工夫をしている。</p>

つくり育てる将来の漁業

